

2002年9月発行  
 発行人：堺 充廣  
 発行所：神戸市中央区海岸通8  
 神港ビルヂング5階509  
 T E L : 078-393-0050  
 F A X : 078-393-0051  
 E-Mail : [kobekeio@dream.ocn.ne.jp](mailto:kobekeio@dream.ocn.ne.jp)  
 U R L : <http://www.kobekeio.org/>  
 編集：堀 友子・八巻 晤郎

## ～8月例会レポート～

坂本憲一郎 (H6環)

数日前までの酷暑が嘘のように過ごしやすくなった8月23日、神戸グリーンスタジアムで8月度例会が開催されました。ほどよく冷房の効いたところでステーキディナーを楽しみながらの歓談と野球見物という趣向です。あいにくの雨模様そして三宮から距離があるにもかかわらず、30名の方々にご参加頂きました。



試合開始が6時と早かったため、会場に到着された方から順に軽く一杯始めていただき、大体のメンバーが集まった6時半過ぎ、和田会長のご挨拶で懇親パーティーが始まりました。

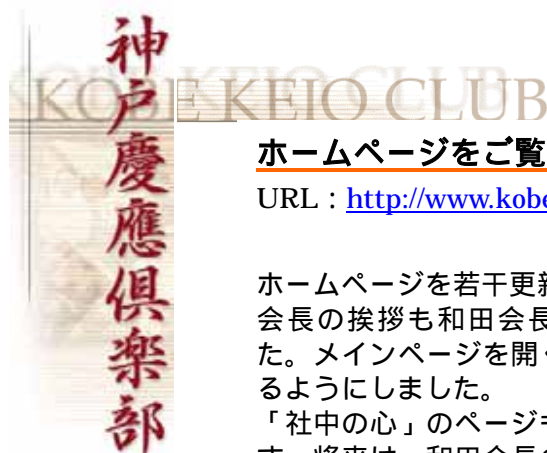
試合の方は、話題の少ないオリックスにあってただ一人春先からやわらちゃんとの交際でニュースになり首位打者をねらう谷選手が初回早々にホームランを放ち先行、六回には盛大な花火が打ち上がり、われわれ観客だけではなくオリックスや西武の選手達が全員ベンチから出てきて、夏の夜の風物詩を見上げていたのが印象的でした。

レストランからはカクテル光線に照らし出された球場全体が見渡せ、天然芝の緑が映えるグラ

ドで、投げ、打ち、走る選手の動きが俯瞰でき、ナイターの醍醐味を十分に味わうことができました。

懇親会の最後には、オリックス球団よりご提供いただいた、ラーメンどんぶり・サインボール・マウスパッド・うちわ等のオリックスグッズの抽選会、そして4名の新入会員の紹介があり、お開きとなりました。(司会はもちろんウッチーこと内山会員です。) レストランの営業時間が9時までということで試合観戦を中途にして閉会せざるを得なかったのは残念でしたが歓談の方は浦上市会、北口県会、そして赤羽国会と議会報告や抱負で盛り上がりました。

希望者は引き続き二階内野席で観戦することができ、試合は延長10回、伏兵貝塚の出会い頭の一発でケリがつき3-2で西武の勝利に終わりました。試合終了時には、大半のメンバーは既に球場を去り、ご自宅もしくは三宮近辺にいらしたことはと思いますが・・・



**ホームページをご覧ください!**

URL : <http://www.kobekeio.org/>

ホームページを若干更新しています。会長の挨拶も和田会長に更新しました。メインページを開くと塾歌が流れるようになりました。

「社中の心」のページも開設しています。将来は、和田会長の挨拶をビデオレターにしたいと思っています。

(監修管理：堺 充廣)

## 第七陸軍技術研究所の功罪

第五十七回目の終戦記念日に思う

岡本 彰祐（昭十六医）

私はその時、第七陸軍技術研究所にいた。

それに先立つ昭和二十年三月の空襲で、東京はほとんど焼野原となった。その中で新宿にあった私どもの研究所は無傷のまま残った。「米軍はよく知っている。成果のあがらない研究所は爆撃しない」と、私どもは言いあつた。

陸軍は、戦争が拡大してから基礎研究の立遅れを痛感した。各方面の大物学者を顧問に、当時の若手学者を戦場から呼び戻し、この研究所を作つたのであつた。

かくて、プロジェクト研究が次々に発足した。そのひとつがけ（丸け）という暗号名のもつて、陰では「間ぬけの研究」と呼ばれていた。

けは熱線指向型ロケットで、軍艦などの発する熱を、ロケットの頭についたレンズがとらえ、それを追いかける。アイデアは最新式ロケットと同じであつた。

しかし精度がわるく、伊豆の初島近くの海上の仮想敵の焚火を狙つたはずが、熱海の旅館の温泉（やはり熱を発する）に飛びこむ、という珍事を起こして「間ぬけの研究」の名を高からしめた。

\* \* \* \* \*

筆者は中国奥地の野戦病院から、東京新宿の陸軍の研究所に戻つてきた。太平洋戦争末期、昭和十九年九月のことであるが、実は陸軍省の「新薬」の開発研究を行つたためであつた。

この「新薬」は、東京大学薬学部の落合英二の合成したクリプトシアニン（虹波）という感光色素で、当時重大な問題

であつたハンセン病の治療（とくに筋麻痺など）に有望だと言われていたが、その作用のメカニズムはほとんど不明であつた。

しかし、いろいろと調べてみて、筆者はアセチルコリン（神経ホルモンの一種）の分解酵素に注目するようになった。この酵素反応に、きわめて薄い「虹波」を加えてみると、アセチルコリンの分解は完全にとめられたのである。こうして、虹波はハンセン病の筋麻痺を改善するということにもなるのである。大変幸運な発見であつた。

さらに、このような酵素実験により、すでに落合の手許で合成されていた約二〇〇種類以上の化合物についても、その作用との関係を調べあげることができた。終戦まであと数ヶ月の期間であつた。これらの研究成績は、終戦直後、米軍に没収され、論文としては発表されていない。

\* \* \* \* \*

しかしこの研究所には大きな功績が残つた。それは、多数の若手科学者を戦場から呼び戻し、戦後の教育と研究の復興に、戦力として残したことであつた。

数えあげるなら、田崎一二、富田恒男、田中重太郎、そして不肖私も、この研究所の措置により、戦後復興への一兵卒として生かされた一人であつた。この後、筆者が二系列、三種の新薬を世に送る研究に成功できたのも、この研究所の御陰なのかもしれない、と思うのである。

# 会員だより

## 京都五山の送り火

池田雅彦（昭和 39 工）

京都の夏はとにかく暑い。（今年の神戸も暑かったが...）京都は四季折々の変化を、色や音、それに香りで感じ取れる点ではホントに恵まれているが、夏の暑さだけはどうしても頂けない。

今のようなク - ラ - がない時代は、耳の奥深くジ - と鳴り続ける蝉の声に囲まれながら、じっとしていても汗がしたたり落ちるのが常であった。

そんな暑い京都の夏の大きな行事は祇園祭りと大文字の送り火である。

ところが祇園祭りは、ちょうど時期的に中高時代は学期末試験で忙しい最中であつたし、大学時代はまだ授業があつて東京にいたので、私にとっては殆どこれといった思い出は残っていない。

私の家は銀閣寺の北西、北白川にあつたので、家の 2 階は大文字を見るための特等席のようなもので、少々煙も見えたが迫力のある光景を毎年見ることができた。

大きな炎とともに、お盆で戻っていた御先祖様の霊が天に戻られると言う言い伝えが真に迫っていて、神妙に手を合わせたものである。大文字の送り火は、私にとってはそんな厳かな歳時であるとともに、だらだらとした暑い毎日にけじめをつけるのに大きな意味があつた。

小・中・高までは、「遊びほうけた夏休みもあと 2 週間、今から必死で宿題を片付けないと...」と悲痛な思いで炎を見続けたし、大学の頃は 9 月から始まる前期考査の準備が急に気になり、やがて親元を離れ東京に戻らねばならぬ寂しさを感じながら炎をみていた。

この大文字の送り火を境に、京都では鬼やんまに代わって赤とんぼが増え始め、「ミンミン、ジ - ジ - 」とうるさかった蝉に代わって一斉に「つくつくぼうし」の音が聞かれる。この急激な自然の移ろいは見事なもので、私も負けじとばかり生活態度を変えようと努力したのが懐かしく思い出されるのである。



## 北の大地へ

徳丸公義（昭和 54 商）

突然思い立ち、北海道へ行くことにした。久しぶりの一人旅。かつての青年は荒野を目指した。愛車で走りこむためフェリーで舞鶴から小樽へ。家を出てから 40 時間後の午前 4 時に小樽到着。ここからラベンダーで有名な富良野とお花畑の美瑛を駆け巡る。旭川泊。本日の走行距離 394 k m。翌日は層雲峠を経て 30 年前からの憧憬の美幌峠を目指す。走る。走る。東へ向けて。車も人も快調だ。スピードメーターがぐんぐん上がる。一般道路で初めてアクセルを床まで踏みつけて（ごめんなさい）時速 ??? k mの世界を垣間見る。それでも目的地までは遠かった。ようやくオホーツク海まで数十キロの地点で峠に近づく。いくつものカーブを曲がりに曲がる。そして遂に頂上へ。この 360 度に広がる景色はどうだろう。彼方に阿寒湖が光を放っている。目の前に大きく広がる屈斜路湖の吸い込まれそうなブルー。体の中を風が吹き抜けていく。ああ、ここが美幌峠。満足だ。



せつかくここまでできたなら摩周湖へ。霧はまったく漂っていない。流れ込む川のない神が住むという澄んだ湖。

**美幌峠のパノラマ** カルデラ湖のため周囲は険しく切り立ち、人の侵入を凜として拒んでいる。しかし全体に緑に囲まれ、悲しいほどに美しい。その後阿寒湖で毬藻を買ったあと帯広へ向かってひたすら西へ走る。ようやくホテルに到着。本日の走行距離 530 k m。一般道路だけの距離としては私にとっての新記録。翌日は襟裳峠を駆け抜け苦小牧から再度小樽へ。走りに走った北の大地ともいよいよお別れだ。本日の走行距離 430 k m。

いいですねえ。ブラリ青春一人旅！

忘れかけたもの、見つかりましたか？（ほ）



## 「趣味」欄顛末

瀬尾宏郎（昭34 経）

慶應倶楽部入会の際、趣味欄に記入しようとして思い留まった趣味について述べてみたい。

実は、国鉄の記念切符の収集が趣味だった。過去形になったのは、国鉄が民営化され JR になったからである。

東京勤務当時（昭和50年代）地下鉄の開設・延伸が盛んで長男を連れて度々乗車し、記念乗車券を購入していた。これをキッカケに国鉄でも記念切符が出ていることを知り、収集を始めることにした。切符としたのは、発行されるのが乗車券だけでなく、入場券・特急券・急行券など色んな切符があるからだ。

何時頃から発売されるようになったかは定かではないが、当初は乗車券が主体で、皇族の行幸・行啓・軍事演習を記念するもので何年か一件程度であった。

戦後になり40年代頃までは、新線の開通、電化、新駅の開業などが主なテーマで、記念券・乗車券が中心で発売も年30件程度だった。

これが45年以降は急速に発売頻度が高まり、年200件以上となった。種類も急行券・入場券が急増し、テーマも従来のものに加え、「さよなら蒸気機関車」・特急・急行の新設・増発などがある。50年代に入ると、各鉄道管理局から、文化財・観光地・お祭り・史跡などのシリーズものが増えてきた。また51年は天皇御在位50年を記念して、30件余りの急行券が発売された。そして、60年代に入ると国鉄民営化ということで、各種お別れ記念切符が発売され、余りの多さに発売内容を把握できないままの状態である。

今改めて整理してみると、国鉄の発展の歴史、記念とは無関係のシリーズものの発売という商業主義なども見えてくる。

収集当初は、アルバムの冊数も少なく、友人が来た時、目を通すまで酒は出さないといって無理に見せていたが、今や70数冊ともなると可哀相だ。

国鉄は永遠で、エンドレスの収集と思っていたが、JR となって終点ができたので残りを何とか集めたいと思っている。

## 同好会だより

### ゴルフ同好会

～～秋のゴルフコンペのご案内～～

#### 10月25日（金） オリエンタルゴルフ倶楽部

秋の神戸慶應倶楽部懇親ゴルフコンペを開催いたします。仲間だけの楽しいコンペですので、皆さま奮ってご参加ください。

参加者は、セルフかキャデイ付きか、女子プロまたは研修生の同伴かのご希望をご連絡ください。また、ハンデキャップは自己申告といたします。

なお、当日有馬温泉で10月度例会が行われますので、コンペ終了後現地へ向かう予定にしております。参加ご希望の方は、10月10日までに事務局までお申し込みください。

近藤 正



### 他倶楽部との懇親ゴルフコンペのお誘い

#### 大阪慶應倶楽部 懇親ゴルフ会

日時：平成14年9月28日（土）7：30 集合

場所：交野カントリー倶楽部 8：00 スタート

（同倶楽部理事長は、藤木康信氏（S61 法）です。

大阪府交野市倉治 2937 Tel：072-892-1101

阪神高速守口線守口 IC より 18km

会費：5,000 円（プレー費・昼食代等は各自精算）

参加申し込み、お問い合わせは事務局まで

#### 東京三田倶楽部交流懇親コンペ

11月22日（金） 廣野 GC

懇親会：十五番館

11月23日（土）オリエンタルゴルフ倶楽部

懇親会は、ゴルフ参加者だけではなく、会員の方々にも多数参加していただければと思います。

参加ご希望の方は、事務局にお問い合わせください。

## ちょっと一言

7月31日～8月7日まで、日吉のスクーリングに参加してきました。教室も全部冷房付きで、以前に比べて楽になりました。図書館前の木々がなくなり残念でした。王鞍延子（H4文H12 経）初めての関西生活です。辰野芳之（S42 経）囲碁同好会に入会いたしました。

浅沼清之（S36 経）

# 会員の輪

伊藤康之介会員より

宮崎 誠 (昭 48 経)

在学中は気賀健三先生のゼミで比較経済体制論をやってまして、当時盛んだった共産主義をおおいに批判しておりました。

もともと共産主義が拠って立つマルクスの労働価値説は、供給側のコスト分析には熱心だったが、需要についてはまったく関心のない生産費説でして、経済分析としては片手落ちもいところでした。それでもマルクスの考え方は、一つの思想として高度成長下の日本でも多くの人々の共感を呼び、学生運動のバックボーンとなったのは周知の事実です。

気賀先生は、この共産主義を比較経済体制論として学問的に批判したわけですが、その批判が正しかったことを証明するように、1989年にベルリンの壁が崩壊し、いまや共産主義は地球上から姿を消そうとしております。労働者の窮乏化を説いて平等な社会を標榜した共産主義が、結局は自由や基本的人権といった人間社会に不可欠な価値を無視することになったのは、歴史の皮肉というほかありません。

しかしながら、現在のように貧富の差が開いてきますと、やはりマルクスの分析は正しかったのではないかと、サービス残業は資本論の搾取の過程そのものではないかといった素朴な疑問も出てまいります。福沢諭吉が「学問のすすめ」の中で単純に肯定したような競争社会をこれからも信奉すべきなのか、といった根本の部分を探りながら、新しい社会の枠組みを模索することも必要ではないでしょうか。

今回は35年卒の井上 光さんをお願いいたします。

## 今月の絵

絵画同好会

志原照造

(昭 38 政)



安永利啓会員より

新見みつ子 (平 8 文)

## 「日本熊森協会」って？

耳馴れない協会の存在を知ったのは、夫が“今日素晴らしい講演を聞いて感動した。活動を支援したい。”と話してくれた時だった。その講演は、国際ロータリーの地区大会での記念講演で「自然保護大国でなければ 21 世紀は生き残れない」～クマの棲む豊かな森を次世代へ～と題した日本熊森協会会長森山まり子氏の講演であった。後日、大会の記録誌が発行され、私も講演内容を読ませてもらい、その活動に心うたれたので紹介したい。

森山氏は尼崎市立中学校の理科の教諭で 1992 年勤務校の生徒たちが起こした「ツキノワグマを絶滅させるな」という活動を支え、発展させ“クマの棲む豊かな森を”をスローガンに「日本熊森協会」という欧米型実践自然保護団体を立ち上げた方である。

10 年前、痩せこけたクマが射殺されたという新聞記事をきっかけに、先生と生徒たちは奥山の生態系が荒廃していることを知り、重い腰の行政を動かし、奥山にクマ等野生動物のエサとなる実のなる広葉樹の植林を呼びかけた。全国植樹祭が戦後 50 年間ずっと杉の植樹であったのを、1994 年兵庫県での植樹祭では 26 種の広葉樹に、両陛下のお手植えも広葉樹へと、貝原兵庫県知事の英断を引き出す原動力にもなった。

息の長い活動を通して当時の中学生も今や大学生や大学院生となり、会員たちでお金を出し合い、汗を流し、泥にまみれて奥山の保全・復元に取り組む「熊森協会」の推進役を果たしている。との報告は、何とも頼もしく、粘り強い地道な活動に敬意を表するとともに元気をもらったような気がしている。

次号は村田幸恵さん(昭 35 法)に書いていただきます。

会員の輪をひろげよう！

# 新入会員紹介



## ～9月例会のご案内～

日時：9月27日（金）18：30～21：30

第1部 講演会 倶楽部ルーム

講師：細谷一郎氏（Jリーグマッチコミッショナー）

演題：「サッカー雑談」

細谷氏は、早稲田大学出身で、Jリーグ前身の日本リーグ時代に、三菱重工（後の浦和レッズ）に所属し、リーグ戦優勝や天皇杯優勝等を経験された方です。

第2部 懇親会

旧居留地十五番館 会費：5,000円

（女性・卒後5年未満会員は4000円）

編集部よりお願い

子供のころの思い出の場所やお気に入りの散策スポットについて、皆さんからの投稿をお待ちします。

皆さまのご意見・ご感想をお聞かせください。

堀 友子  
八巻 晤郎

## ～今後の行事予定～

10月度例会：10月25日（金）於：有馬 VIVI

関西合同三田会：11月17日（日）

奈良三田会の主管で、天理市で開催されます。  
神戸からは送迎バスを運行いたします。ご家族お揃いで紅葉の奈良をお楽しみください。

会費：7000円（バスご利用の方は別途 2000円）

集合場所と時間：JR三宮東「東急イン」前 8：15

12月度例会・忘年会：12月21日（土）

2003年新年会：日にち変更：1月21日（火）

各例会の詳細につきましては、BRB・メールマガジン等でお知らせしますので、毎月ご覧ください。

ものかは 何秋の？ へ。	のり果の 秋の？ を育。	成もを のを真 秋の？ を育。	ちもを のを真 秋の？ を育。	合を のを真 秋の？ を育。	方赤元 のを真 秋の？ を育。	たちが のを真 秋の？ を育。	たが のを真 秋の？ を育。	始まる のを真 秋の？ を育。	学校で のを真 秋の？ を育。	夏休み のを真 秋の？ を育。	○マ のを真 秋の？ を育。	が終 のを真 秋の？ を育。	わる のを真 秋の？ を育。	ころ のを真 秋の？ を育。	、近 のを真 秋の？ を育。	く のを真 秋の？ を育。	の のを真 秋の？ を育。	中 のを真 秋の？ を育。	（ほ） のを真 秋の？ を育。	あ のを真 秋の？ を育。	い のを真 秋の？ を育。	実 のを真 秋の？ を育。	は のを真 秋の？ を育。	本 のを真 秋の？ を育。	人 のを真 秋の？ を育。	が のを真 秋の？ を育。	先 のを真 秋の？ を育。	頭 のを真 秋の？ を育。	を のを真 秋の？ を育。	切 のを真 秋の？ を育。	っ のを真 秋の？ を育。	踊 のを真 秋の？ を育。	り のを真 秋の？ を育。	狂 のを真 秋の？ を育。	っ のを真 秋の？ を育。	て のを真 秋の？ を育。	、 のを真 秋の？ を育。	暑 のを真 秋の？ を育。	い のを真 秋の？ を育。	○ のを真 秋の？ を育。	時 のを真 秋の？ を育。	の のを真 秋の？ を育。	経 のを真 秋の？ を育。	つ のを真 秋の？ を育。	の のを真 秋の？ を育。	は のを真 秋の？ を育。	本 のを真 秋の？ を育。	当 のを真 秋の？ を育。	に のを真 秋の？ を育。	早 のを真 秋の？ を育。	い のを真 秋の？ を育。	○ のを真 秋の？ を育。	の のを真 秋の？ を育。	暑 のを真 秋の？ を育。	編 のを真 秋の？ を育。	集 のを真 秋の？ を育。	後 のを真 秋の？ を育。	記 のを真 秋の？ を育。
--------------------	--------------------	--------------------------	--------------------------	-------------------------	--------------------------	--------------------------	-------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	--------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------